



Q&A

専門の医師がお答えします

「膝周囲骨切り術」

関節温存、生活の制限なく

京都久野病院 整形外科副部長
梶川 佳照 氏

Q 膝周囲骨切り術とは。

A 主に中高年の女性に多い変形性膝関節症に対して行われる手術です。O脚やX脚に曲がった脚の骨の一部を切り真っすぐに戻す方法です。膝下の脛骨（けいこつ）の内側をくさび状に開き、人工骨を入れて矯正し金属プレートで固定します。1年ほどで人工骨が自分の骨に置き換わったら金属プレートを抜去します。変形が強い場合には膝上の大腿（だいたい）骨も同時に矯正します。

Q 人工膝関節置換術（人工関節）との違いは。

A 人工関節は変形した関節の表面を金属の部品で置換する手術で、国内で年間約7万件です。回復が早く手術翌日から立って歩く練習ができますが、長く使用するためには膝に負担の掛かる作業やスポーツなどに制限があり、すり減ったり緩んだりすると交換が必要です。金属の違和感が残ることもあります。膝周囲骨切り術は骨切りと聞くと驚かれる方もありますが、関節温存手術です。近年手術の道具や方法が飛躍的に進化し、患者さんの満足度向上につながる手術として徐々に増えています。年間約7千件と人工関節の10分の1しか行われていないことがとても残念です。骨が癒合（ゆごう）するまで痛みが多少続きますので、回復までリハビリをしっかりと行う必要があります。

Q 予後は。

A 術後のリハビリ期間や入院期間は人工関節と同じくらい短くなり、4～6週間で退院できるようになりました。人工関節と違って関節が温存されることから術後の日常生活に対する制限がなく、スポーツ・仕事への復帰や正座も目指せます。さらに体に金属が残らないので違和感や合併症が少ないです。いろいろな治療方法を専門の医師と一緒に考えて選択していく過程が重要だと思います。

